

町内で回収した廃食油を町内の企業が再利用

パッカー車にBDF燃料導入

「日野なのはなクラブ」が廃食油を回収

循環型社会の構築をめざして株式会社ヒロセ（村田真弓代表取締役）は、CO2排出を抑え地球温暖化ストップに貢献すべく、昨年八月より廃食油を原材料としたバイオディーゼル燃料（BDF燃料）でパッカー車（塵芥収集車）一台を運行させている。BDF燃料100%で車を運行するに

は、一台あたり月三百リットルの燃料を必要とするため、廃食油の回収量の安定化が求められる。

そこで、平成十四年から町内で廃食油回収を実施しているボランティア団体「日野なのはなクラブ」が、年間約二千リットルを回収していることから、二十一年度より同クラブが回収した廃食油が、町と（株）ヒロセの契約でパッカー車の燃料となっている。

同クラブのボランティアらは「日野町で回収した廃食油を町内の企業が再利用し、

身近で運行する車に活用されることほうれしい」と話しており、

排気ガスでなく天ぷらの香りがする、たった一台のパッカー車に出会えることを楽しみにしているという。

（株）ヒロセは、回収した廃食油を甲賀市で稼働している同社のリサイクルセンターで、BDF燃料にリサイクルしており、回収量が増加されると車両の運行台数も増加できることから、廃食油の回収量の増加に期待している。「使用済みの天ぷら油は使い切るのが最善だが、古くなればゴミとして廃棄するのではなく、日野なのはなクラブ

BDF燃料で走るパッカー車



が回収活動を行っている奇数月の第四日曜日の午前九時から十時の間に、町内の公民館に持参してほしい」と、関係者は話している。【山田